

令和7年度 全国学力・学習状況調査 における分析結果及び授業改善のポイント

授業改善のポイント

【調査目的】

- 1 児童の学力の定着状況及び教育課程や指導方法等にかかわる課題及び解決策を明確にし、教職員の指導力の向上を図り、学力向上施策に資する。
- 2 教育課程や指導方法等にかかわる課題・解決策を明確にし、児童一人一人の学力の定着と伸長を図る。
- 3 保護者及び市民に対し、本校児童における学力の定着状況について、説明責任及び結果責任を果たす。

【調査学年】

- 第6学年 68名

【調査日】

- 令和7年4月17日（木）

【調査の内容】

- 1 教科に関する調査〈選択式・短答式・記述式の3種類〉
 - ・国語 ・算数 ・理科
- 2 児童質問紙調査
- 3 学校質問紙調査

目 次

1	国語の調査結果	1
2	国語の問題と分析・学習のつまずきの系統・授業改善のポイント	3
3	算数の調査結果	7
4	算数の問題と分析・学習のつまずきの系統・授業改善のポイント	9
5	理科の調査結果	13
6	理科の問題と分析・授業改善のポイント	16
7	児童質問紙調査結果の概要	17
8	各教科等における授業改善のポイント	裏表紙
9	カリキュラム・マネジメント	裏表紙

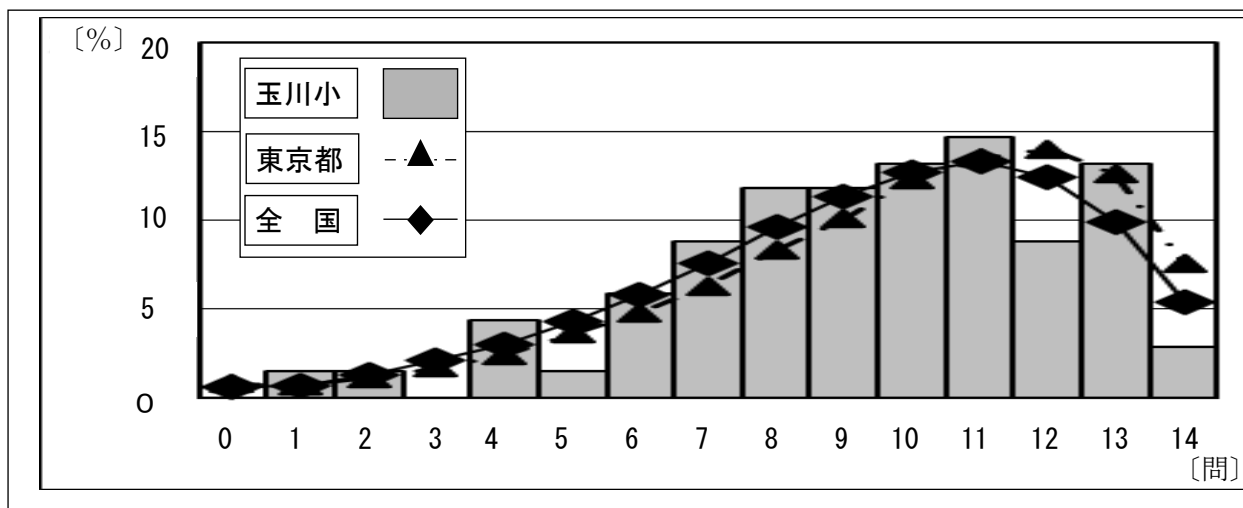
令和7年 8月
昭島市立玉川小学校
校 長 小瀬 和彦

1 国語の調査結果

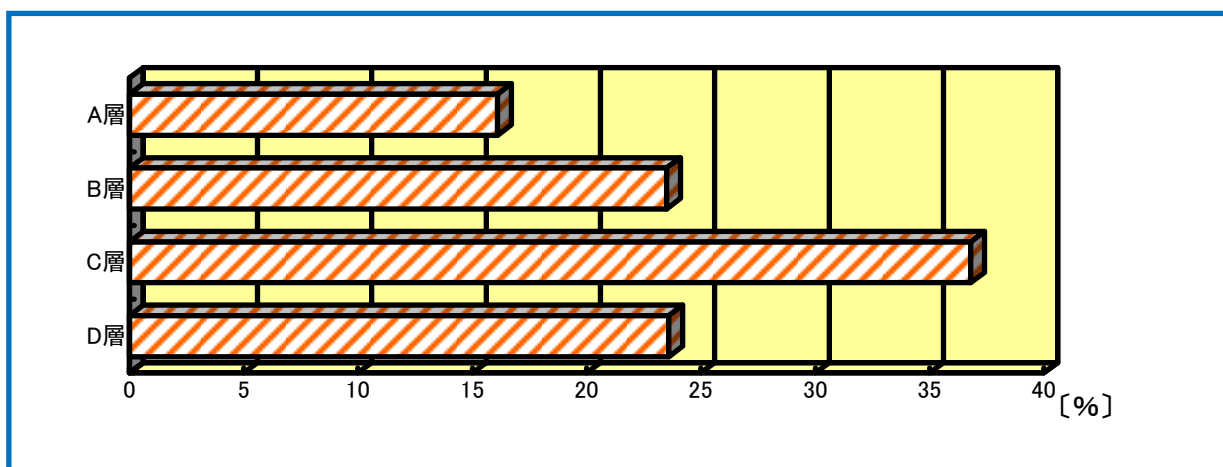
(1) 国語の調査結果の概要

平均正答率〈％〉	本校 67.0％	東京都 70.0％	全国 65.6％
----------	----------	-----------	----------

① 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：正答した人数の割合）



② A層（習熟の早い層）からD層（習熟の遅い層）の児童の割合



(2) 学習指導要領の領域と観点別結果

			対象問題数 (14 問)	平均正答率 (%)
学習指導要領の内容	全体		14	67
	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	68.4
		(2)情報の扱い方に関する事項	1	72.1
		(3)我が国の言語文化に関する事項	1	80.9
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	70.1
		B 書くこと	3	73.5
		C 読むこと	4	54.8
評価の観点	知識・技能		4	72.4
	思考・判断・表現		10	65.0
	主体的に学習に取り組む態度		0	—

(3) 国語の設問ごとの正答率と分析

問題 番号	問題の概要 (出題の趣旨)	本校		全国 (公立)	
		正答率	無解答率	正答率	無解答率
1 一	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部を説明したものとして適切なものを選択する。(目的に応じて比較・関連付け、伝え合うことを検討することができる。) 〔話す・聞くこと、思考・判断・表現〕	54.4%	1.5%	53.3%	0.5%
1 二	【話し合いの記録】の書き表し方の説明をしたものとして適切なものを選択する。(情報の関連付けや語句同士のとの関係を理解し、使うことができる。) 〔情報の扱い、知識・技能〕	72.1%	1.5%	63.1%	0.5%
1 三 (1)	【インタビューの様子の一部】で、小森さんが傍線部アのように質問した意図として適切なものを選択する。(意図に応じて話の内容を捉えることができる。) 〔話す・聞くこと、思考・判断・表現〕	73.5%	1.5%	71.8%	0.6%
1 三 (2)	【インタビューの様子の一部】で、小森さんが傍線部イのように発言した理由として適切なものを選択する。(話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることができる。) 〔話す・聞くこと、思考・判断・表現〕	82.4%	1.5%	73.7%	0.6%
2 一	【ちらし】の文章構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する。(書く内容の中心を明確にして、内容のまとまりで段落をつくることなどの構成を考えることができる。) 第3・4学年 〔書くこと、思考・判断・表現〕	66.6%	2.9%	65.5%	0.8%
2 二	山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明したものとして適切なものを選択する。(図表などを用いて自分の考えが伝わるよう書き表し方工夫することができる。) 〔書くこと、思考・判断・表現〕	86.8%	1.5%	81.8%	0.8%
2 三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く。(目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたり考えが伝わるように書くことができる。) 〔書くこと、思考・判断・表現〕	67.6%	1.5%	61.3%	5.0%
2 四 ア	【ちらし】の下線部アを、漢字を使って書き表す。〈このみ〉第4学年	79.4%	11.8%	81.6%	7.2%
2 四 イ	【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き表す。〈あつひ〉第3学年	57.4%	10.3%	72.1%	4.3%
3 一	【資料1】を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して木村さんの気付いたこととして適切なものを選択する。(時間の経過による言葉の変化、世代による言葉の違いに気付くことができる。)[我が国の言語文化、知識・技能]	80.9%	4.4%	81.2%	1.3%
3 二 (1)	【木村さんのメモ】の空欄に入る適切な言葉を書き抜く。(時間や事柄の順序を考えながら内容の大体を捉えることができる。) 第1・2学年 〔読むこと、思考・判断・表現〕	80.9%	7.4%	81.6%	2.9%
3 二 (2)	【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する。(叙述と叙述の関係を捉えて、全体の要旨を把握することができる。) 〔読むこと、思考・判断・表現〕	55.9%	7.4%	51.3%	2.4%
3 三 (1)	【話し合いの様子】の田中さんの空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する。(目的に応じて文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ることができる。) 〔読むこと、思考・判断・表現〕	33.8%	5.9%	40.8%	3.4%
3 三 (2)	【資料1】を読み返して、言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2・3・4】の中から理由を選び、書く。(目的に応じて文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取り、条件にしたがって書くことができる。) 〔読むこと、思考・判断・表現〕	48.5%	20.6%	56.3%	16.2%

2 国語の問題と分析・授業改善のポイント

(1) 学習のつまずきが見られるの問題と分析

【問題の概要】国語[3]三(1)

木村さんは、言葉の変化について田中さんと話し合いながら、下の〈資料1〉を読み返しています。次の〈話し合いの様子〉をよく読んで、〈話し合いの様子〉の **A** にあてはまる内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から、1つ選んで、その番号をかきましょう。

〈資料1〉

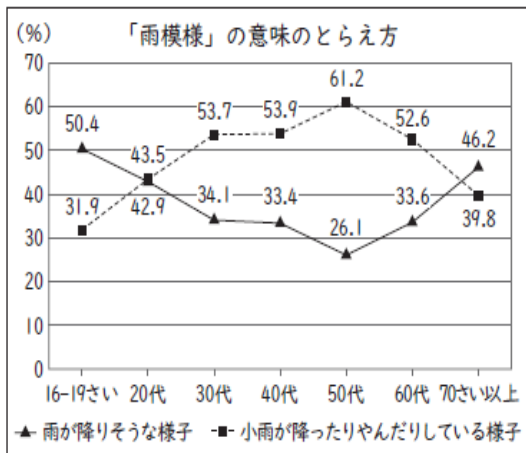
言葉は、年月とともに変化していくものです。かつて規範的であると考えられていた言葉の形や意味が、現代においては通用しなくなっていたり、使い方が変わっていたりする場合は少なくありません。

ですから、意味や使い方に揺れが生じている言葉について、「この使い方だけが正しい」と決めつけるのは短絡的ともいえるでしょう。①この本を読むとお気づきなと思いますが、文化庁国語課では、言葉の意味について「正しい」「誤り」といった判断をせず、代わりに、②「本来の意味」「本来とは違う使い方」といった言い方にとどめています。言葉の正誤を軽々しく決めることはできないと考えるからです。

とはいえ、どんな言葉を使ってもいい、というわけではありません。③コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません。

④「言葉は生きている」とも言われます。その広がりや深さにも、触れていただきたいと考えています。
(文化庁国語課『文化庁国語課の勘違いしやすい日本語』による。)

〈資料4〉



(文化庁『令和4年度国語に関する世論調査』による。)

〈話し合いの様子〉

私は、この資料〈資料4〉を見つけたよ。これを見ると、世代によって、「雨模様」の意味のとりえ方にちがいがいることが分かるでしょ。

本当だ。三十代から六十代は本来の意味（「雨が降りそうな様子」）とはちがう「小雨が降ったりやんだりしている様子」ととらえている人の割合が高いね。

私は、こんなふうに、人によって言葉の意味のとりえ方がちがうと、伝え合うときに困ると思うよ。だから、〈資料1〉に「**A**」と書かれているとおりだと思うよ。

言葉の変化については、いろいろな考え方あるんだね。もう一度、〈資料1〉を読み返して、言葉の変化について自分が一番なっとくしたことをまとめよう。

1 〈資料1〉の _____ 部①

2 〈資料1〉の _____ 部②

3 〈資料1〉の _____ 部③

4 〈資料1〉の _____ 部④

【分析】本問は、目的に応じて、文章と図表などを結び付けて読み取り、論の進め方を考え、必要な情報を取り出すことができるかどうかを見る問題であり、正答は、() で、正答率は、33.8%である。

具体的には、〈資料1〉の文章の要旨を把握し、〈資料4〉のグラフから「何が言えるのか」を読み取り、〈資料1〉の資料から田中さんの論の進め方を把握し、必要な情報を取り出して解答する必要がある問題である。

解答類型をみると、32.4%の児童が、〈資料4〉に書かれていること（年代によってことばの意味のとりえ方が異なる）と、同義の〈資料1〉「『本来の意味』、『本来とは違う使い方』といった言い方にとどめています。」と書かれていることを、誤って結び付けていることが分かる。この原因として、〈話し合いの様子〉における田中さんの論の進め方（目的）を十分把握しなかったことによるものと考えられることができる。

したがって、実際の指導に当たっては、目的に応じて、文書資料や図表を比較・関連付けて読み取り、何が言えるのか、明確に話したり、書いたりする場面を意図的・計画的に設定する場面を画的に設定する必要がある。

(2) 学習のつまずきが見られる問題と分析

【問題の概要】国語3三(2)

木村さんは、〈資料1〉(前頁)を読み返して言葉の変化について自分が一番「なっとくした」ことを、〈資料2〉、〈資料3〉、〈資料4〉(前頁)に書かれていることを理由にしてまとめることにしました。

あなたが木村さんなら、どのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- ① 言葉の変化について、「なっとくした」ことを〈資料1〉から言葉や文を取り上げて書くこと。
- ② 「なっとくした」理由を〈資料2〉、〈資料3〉、〈資料4〉の中から選び、言葉や文を取り上

〈資料2〉

「あたらしい」は新しい形

「ふんいき」ということばを「ふいんき」という人が多くなりました。こう言うと、「たいへんだ、日本語がこわれてしまう!」と思う人がいるかもしれません。

でも心配しないでください。にたようなことは、昔からよくあることです。

「できたばかり、まだ古くない」という意味で、私たちは「新しい」と言います。でも、大昔の奈良時代には、「あらたし」と言っていました。今でも、「新しく」という意味で「あらたに」と言うでしょう。「あらたし」は、大昔から使われていました。

ところが、次の平安時代には「あらたし」が「あたらし」になりました。「た」と「ら」の順番が入れかわっていますね。つまり、「あらたし」に比べれば、「あたらし」は新しい形です。それが変化して、今では「あたらしい」になりました。

(飯間浩明『日本語をつかまえろ!』による。)

〈資料3〉

とてもできる?できない?

今、あなたは「勉強がとてもできる」という言い方を変だとは思わないでしょう。「とても」は「非常に」の意味を表します。

ところが、100年ほど前の大正時代、作家の芥川龍之介は、「とても安い」「とても寒い」という言い方は新しいと書いています。それより前の時代には、「とてもかなわない」「とてもまとまらない」のように、「とても～ない」の形で言ったというのです。

つまり、大正時代よりも前は、「勉強がとてもできる」とは言わず、「ぼくには、そんなことがとてもできない」と言っていたんですね。この場合の「とても」は、「どうしても」「とうてい」という意味を表します。

こんな話をきくと、「じゃあ、これからは『とてもできない』と言おう、『とてもできる』とは言わないようにしましょう」と思うかもしれません。でも、その必要はありません。

もっと古い時代、室町時代には、「とても」は「どうせ」の意味で使っていました。たとえば、「とても散るべき花」と言えば、「どうせ散る花」という意味です。

ことばを昔の意味だけで使おうと思ったら、現代では暮らせなくなってしまいます。「昔はどうだったか」を知ることは大事ですが、「現代ではどう使われているか」を理解することも大事です。現代の人は、ことばを現代の意味で使うのが一番いいのです。(飯間浩明『日本語をつかまえろ!』による。)

◇ 解答 正答：条件①、②を満たしているもの。正答率 48.5% 無解答率 20.6%

・「言葉は生きている」ということに納得しました。理由は、言葉は時代によって同じ言葉でも意味や言い方が変わるからです。また、同じ時代であっても、人によって意味の捉え方が違うことがあるからです。言葉は常に変化していることが分かります。〈資料2・3・4〉

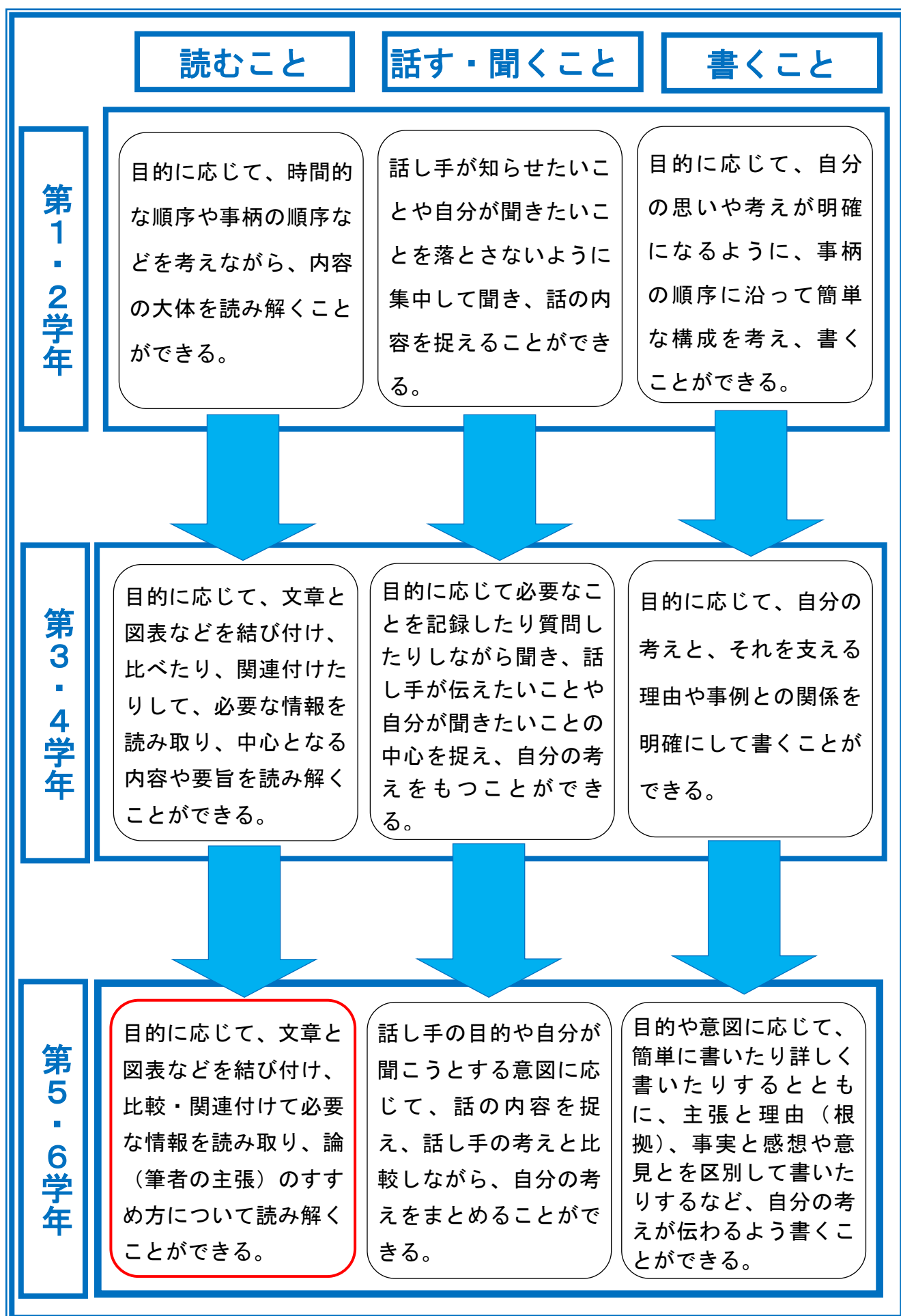
・「どんな言葉を使ってもいい、というわけではない」という部分を読んで、そのとおりだと思いました。なぜなら、世代によって「雨模様」の意味の捉え方に違いがあるからです。コミュニケーションの食い違いが起こると困ると思います。〈資料4〉

・言葉は年月とともに変化するということがなっとくしました。なぜなら、「新しい」という言葉が、奈良時代には「あらたし」言われていたように、時代とともに言葉の形が変わることがあるからです。〈資料2or3〉

【分析】本問は、〈資料1〉から、筆者のいくつかの主張(論)を読み取り、その中から、納得できる主張(論)を取り出し、その理由(根拠)となる〈資料〉を取り上げ、目的に応じて、主張+理由(根拠)を明確にして、書くことができるかどうかをみる問題であり、正答率は、48.5%である。

実際の指導に当たっては、目的や意図に応じて文章から論旨(主張+理由〔根拠〕)を読み取り、その論旨を「話したり・聞いたり」することによって確実に読み解き、論旨に対する自分の考えを書くことにより、自分の考えを深めたり、広げたりする指導の充実を図る必要がある。

(3) 学習のつまずきの系統



(4) 授業改善のポイント

課題：目的や意図に応じて文章から論旨（主張・理由〔根拠〕）を読み取り、その論旨を「話したり・聞いたり」することによって確実に読み解き、論旨に対する自分の考えを書くことにより、自分の考えを深めたり、広げたりすること。

改善策：「読むこと」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の言語活動をバランスよく学習活動に位置付ける。

玉川タイム 言語活動 10 分間チャレンジ〈10 チャレ〉

「玉川タイム 言語活動 10 分間チャレンジ」指導過程

第 1 部

① 〈黙読タイム〉すばやく黙読をする。(全文を読む) →話の全体像を捉える。(大体の事柄・順序)	〈2分〉 「読むこと」
② 〈微音読タイム〉微音読(自分だけに声が聞こえるようぶつぶつ声で音読する)をする。 微音読：声を小さくして文章を読むことで、脳の活性化、記憶力や読解力の向上、ストレス軽減などの効果が期待できる。特に、前頭前野を刺激し、集中力や思考力を高める効果がある。 →要旨(あらすじ、最も大切な部分・筆者の主張)を捉える。	〈2分〉 「読むこと」 学びに向かう態度、知識・技能、思考力・判断力・表現力等
③ 〈要旨書き込みタイム〉「②」で捉えた要旨(あらすじ、最も大切な部分・筆者の主張)を書く。 ※ 自宅で修正・加筆・改善してもよい。	〈6分〉 「書くこと」

第 2 部

④ 〈微音読タイム②〉微音読をする。 →前日に書いた要旨の修正・改善を図る。	〈2分〉 「読むこと」
⑤ 〈学び合いタイム〉学び合いをする。 →まとめた要旨を発表し合い、学び合う。 (よさ・課題を見付ける)	〈6分〉 「話すこと聞くこと」
⑥ 〈要旨修正・改善タイム〉 学び合ったことを、自分がまとめた要旨に活かす。 →学んだ内容を要旨の修正・改善をする。	〈2分〉 「書くこと」

第 3 部

⑦ 〈「考え」表現タイム〉要旨をもとに、自分の考えを書く。 →要旨を基に、「自分の考え」を書く。	〈4分〉 「書くこと」
⑧ 〈学び合いタイム〉学び合いをする。 →要旨を基に、自分の考えを発表し合い、学び合う。 (よさ・課題を見付ける)	〈4分〉 「話すこと聞くこと」
⑨ 〈「考え」修正・改善タイム〉 学び合ったことを、「自分の考え」に活かす。 →学んだ内容を「自分の考え」の修正・改善する。	〈2分〉 「書くこと」

※「帰りの会」等で〈振り返りタイム〉第1部から第4部までの振り返りをする。

→セルフ・モニタリングとセルフ・コントロールを行う。

○ 指導に当たっての留意事項

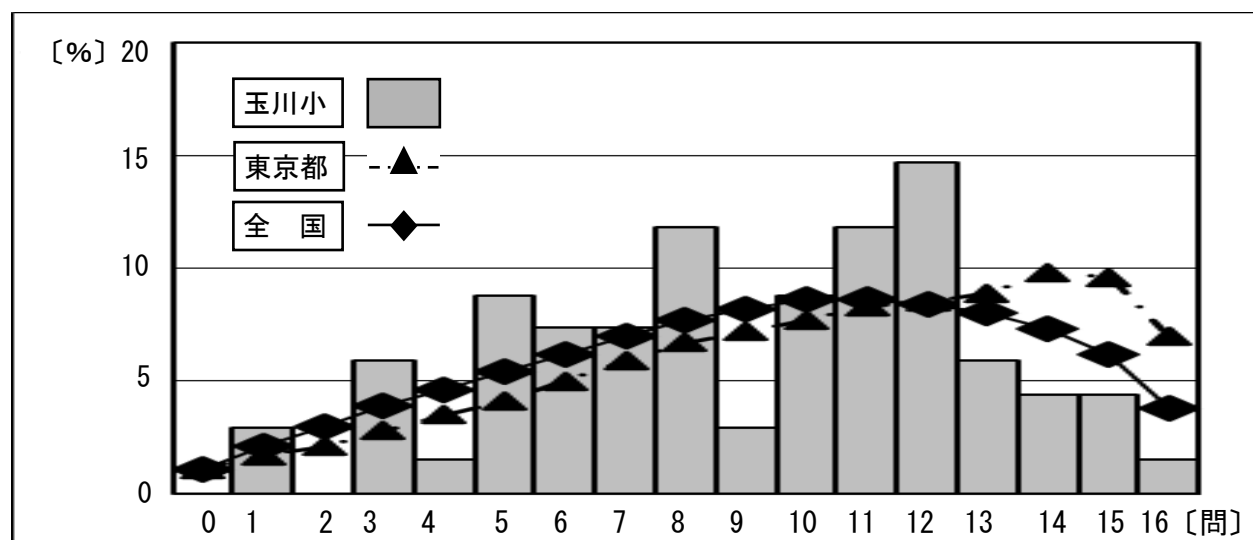
- 1 完成・完全・正解を求めない。
- 2 時間を厳守する。(集中力、思考力・判断力・表現力等を育むため。)

3 算数の調査結果

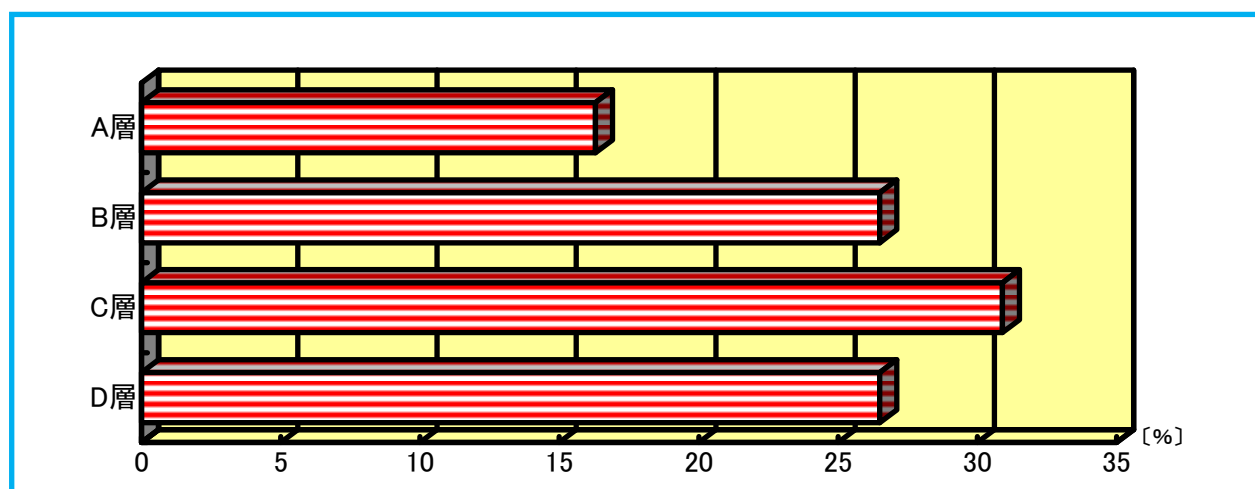
(1) 算数の調査結果の概要

平均正答率〈%〉	本校 57.0%	東京都 64.0%	全国 58.0%
----------	----------	-----------	----------

① 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：正答した人数の割合）



② A層（習熟の早い層）からD層（習熟の遅い層）の児童の割合



(2) 学習指導要領の領域と観点別結果

		対象問題数 (16 問)	平均正答率 (%)
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	61.9
	B 図形	4	54.4
	C 測定	2	51.5
	C 変化と関係	3	56.9
	D データの活用	5	62.6
評価の観点	知識・技能	9	70.6
	思考・判断・表現	7	63.7
	主体的に学習に取り組む態度	0	

(3) 算数の設問ごとの正答率と分析

問題 番号	問題の概要	本校		全国(公立)	
		正答率	無解答 率	正答率	無解答 率
1 (1)	2022 年と 2002 年の全国の出荷量を比べ、何倍か読み取る。 (棒グラフから項目間の関係を読み取ることができる。)第3学年 〔数と計算・データの活用、知識・技能〕	80.9%	2.9%	78.7%	0.4%
1 (2)	都道府県 A の出荷量の増減を調べるために適切なグラフを選び判断し、その理由をかく。(目的に応じてグラフを読み取り、その理由を説明できる。)第3学年 〔データの活用、知識・技能〕	20.6%	0.0%	31.0%	0.9%
1 (3)	表から、「春大根」や「秋冬大根」より「夏大根」の出荷量が多い都道府県を選ぶ。(簡単な二次元表条件に応じた項目を選ぶことができる。)第3学年〔データの活用、知識・技能〕	79.4%	2.9%	71.6%	3.5%
1 (4)	必要な情報を選び、ピーマン 1 個とブロッコリー 4 個の重さを求める式と答えをかく。(必要な情報を選び、数量の関係を式に表し答えを求めることができる。)第4学年 〔数と計算、思考・判断・表現〕	75.0%	1.5%	74.5%	2.6%
2(1)	示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さかき、コンパスの針のさす場所を選ぶ。(平行四辺形の性質を基にコンパスを用いて作図できる。)第4学年〔図形、知識・技能〕	55.9%	2.9%	58.3%	1.2%
2(2)	方眼上の 5 つの図形の中から台形を選ぶ。(台形の意味や性質を基に、選ぶことができる。)第4学年〔図形、知識・技能〕	48.5%	0.0%	50.2%	0.7%
2(3)	角の大きさについて分かることを選ぶ。(角の大きさの性質について理解し、選ぶことができる。)第4学年〔図形、知識・技能〕	89.7%	1.5%	79.3%	1.0%
2(4)	五角形の面積を求めるために 2 つの図形に分割し、面積の求め方をかく。(図形を分割し、既習事項の面積の求め方からそれぞれの面積の求め方を説明できる。)第4学年〔図形、思考・判断・表現〕	23.5%	4.4%	37.0%	2.7%
3(1)	$0.4 + 0.05$ について、整数の下方で考えるとときの共通する単位をかく。(数の相対的な大きさを活用して、共通する単位を捉えることができる。)第4学年 〔数と計算、知識・技能〕	76.5%	1.5%	74.1%	2.8%
3(2)	$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について、共通する単位分数の幾つ分になるかをかく。(共通する単位分数を見だし、幾つ分になるか説明できる。)第5学年 〔数と計算、知識・技能〕	13.2%	20.6%	23.0%	15.7%
3(3)	数直線上に示された数を分数でかく。(数直線上で 1 の目盛りに着目し、単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて表現する。)第3学年 〔数と計算、知識・技能〕	33.8%	10.3%	35.0%	7.8%
3(4)	$\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ を計算する。(異分母の分数の加法の計算をすることができる。)第5学年 〔数と計算、知識・技能〕	83.8%	1.5%	81.3%	4.1%
4(1)	ハトソープが空になるまで何プッシュすることができるのかを調べるために必要な情報を選ぶ。(伴って変わる二つの数量の関係に着目し必要は情報を選ぶことができる。)第3・4・5学年 〔数と計算・変化と関係・データの活用、思考・判断・表現〕	86.8%	2.9%	82.8%	2.6%
4(2)	使いかけのハトソープが後何プッシュできるのかを調べるための情報を判断し、求め方をかく。(伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題解決を図るために必要な数量を見だし、求め方を説明することができる。)第3・4・5学年 〔数と計算・測定・変化と関係・データの活用、思考・判断・表現〕	45.6%	2.9%	48.7%	3.4%
4(3)	はかりの目盛りを読む。(はかりの目盛りを読むことができ。)第3学年 〔測定、知識・技能〕	57.4%	2.9%	60.2%	4.2%
4(4)	10%増量したハトソープの内容量が増量前の何倍かを選ぶ。(10パーセント増量の意味を理解し、増量後の量が増量前の何倍になっているかを表すことができる。)第5学年 〔データの活用、思考・判断・表現〕	38.2%	4.4%	40.9%	4.1%

4 算数の問題と分析・授業改善のポイント

(1) 学習のつまずきが見られる問題と分析

【問題の概要】算数③(2)

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。



ひろと

$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の 3 個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の 2 個分です。

もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

○正答率
13.2%

●通分について書いているものの32.4%

$\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ の基にする数を同じ数にするとき、その数は、 $\frac{1}{12}$ になります。 $\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{12}$ の 9 個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{12}$ の 8 個分です。

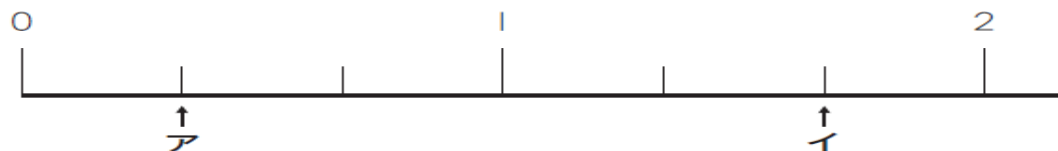
【分析】本問は、分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題であり、正答率は、13.2%である。(4)の分母の異なる加法の計算の正答率は83.8%である。

実際の指導に当たっては、分母が異なる分数の加法や減法は、通分することにより分母が同じ分数の加法や減法として計算することができる。この時、形式的に通分をして計算するのではなく、通分することによって「単位分数の個数」に着目して考えることができるよう指導することが大切である。

(2) 学習のつまずきが見られる問題と分析

【問題の概要】算数②(3)

(3) 次の数直線のア、イの目もりが表す数を分数で書きましょう。



ア $\frac{1}{3}$ イ $\frac{5}{3}$ or 1 と $\frac{2}{3}$ 正答率 33.8% 無回答率 10.3%

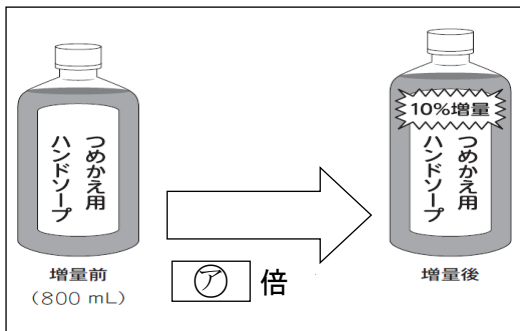
【分析】本問は、数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる問題であり、正答率は、33.8%である。誤答で最も多かったのは、0から2までが6等分されていることから、アについては、 $\frac{1}{6}$ 、イについては、 $\frac{5}{6}$ であると誤って捉えていると考えられる。

実際の指導に当たっては、数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えられるよう指導する必要がある。ここでは、0から1までを3等分した目盛りの一つ分の大きさは、 $\frac{1}{3}$ であること捉えさせる場面を繰り返し設定し、分数の意味や表し方を理解できるようにすることが大切である。

(3) 学習のつまずきが見られる問題と分析

【問題の概要】算数4

家に帰ったあさひさんは、詰め替え用のハンドソープがのっている広告を見ました。
 広告には、詰め替え用のハンドソープが「10%増量」と書かれています。増量前の詰め替え用のハンドソープの量は、800mLです。



増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍ですか。左のアにあてはまる数を、下の1から4までのの中から1つ選んでその番号を書きましょう。

1 0.1 2 1.1 3 10 4 110

正答率 38.2% 無回答率 4.4%

【分析】本問は、10%増量の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを示すことができるかどうかをみる問題であり、正答率は、38.2%である。誤答で最も多かったのは、「0.1 倍」と回答した児童で、39.7%の割合であった。「10%増量」については、百分率で表された10%を0.1と捉えることはできているか、「増量後の量」が110%となることを捉えることができていないと考えられる。

実際の指導に当たっては、百分率の意味と使い方について、日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察できるような場を設定し、その成果を日常生活に活かせるようにすることが大切である。

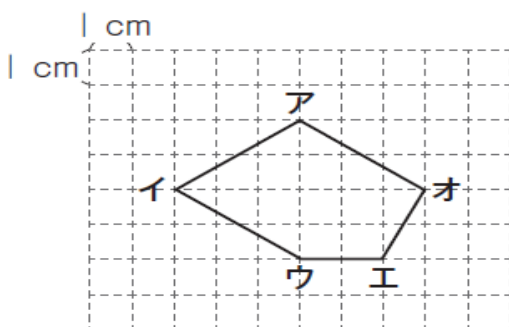
(4) 学習のつまずきが見られる問題と分析

【問題の概要】算数[2](3)

下の図のような五角形アイウエオを2つの図形に分けて面積を求めるとき、あなたなら、どちらの直線を引いて求めますか。2つの図形に分ける1本の直線を、下の1と2から選んで、その番号をかきましょう。

また、2つの図形の面積がそれぞれ何 cm^2 になるのか、それらの求め方を図の中から必要な長さを調べて、式や言葉を使ってかきましょう。ただし、計算の答えをかく必要はありません。

1 直線イオ 2 直線ウエ



※ 必要ならば、下の公式を使って考えてもかまいません。

- ・ 長方形の面積＝たて×横＝横×たて
- ・ 正方形の面積＝1辺×1辺
- ・ 平行四辺形の面積＝底辺×高さ
- ・ 三角形の面積＝底辺×高さ÷2
- ・ 台形の面積＝(上底＋下底)×高さ÷2
- ・ ひし型の面積＝対角線×対角線÷2

【分析】本問は、複合図形を基本図形に分割し、分割した図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて説明できるかどうかをみる問題であり、正答率は、23.5%である。

実際の指導に当たっては、平面図形の面積に関わる数学的活動を通して、三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積の計算による求め方について具体的操作を通して捉えさせる場面を繰り返し設定し、知識及び技能を身に付けられよう指導することが大切である。

(5) 学習のつまずきの系統

図形

変化と関係

第1学年

身の回りにあるものの形に関わる数学的活動を通して、次の事項身に付けることができるよう指導する。
(7) ものの形を認め、特徴を知ること。
(4) 具体物を用いて形を作ったり分離したりすること。〈略〉

数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり日常生活に生かしたりすること。

第2学年

図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
(7) 三角形、四角形について知ること。
(4) 正方形、長方形、直角三角形について知ること。〈略〉
(5) 図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えるとともに身の回りのものの形を図形として捉えること。

数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を利用して、計算を工夫したり、確かめたりすること

第3学年

図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
(7) 二等辺三角形、正三角形などについて知り、作図などを通してそれらの関係に次第に着目すること。
(4) 基本的な図形と関連して角や円について、中心、半径、直径を知ること。〈略〉

数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。
(7) 数量の関係を表す式について理解するとともに、数量などを口などに数を当てはめて調べたりすること。
(4) 数量の関係に着目し、数量の関係を図や式を用いて、簡潔に表したり式と図を関連付けて式を読んだりすること。

第4学年

平面図形の面積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
(7) 直線の平行や垂直の関係をについて理解すること。
(4) 図形を構成する要素に着目し、及びそれらの位置関係に着目し、構成の仕方を考察し、図形の性質を見いだすとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直すこと。

二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。
(7) 簡単な場合について、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを知ること。
(4) 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係を考察すること。

第5学年

平面図形の面積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
(7) 三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積の計算による求め方について理解すること。
(4) 図形を構成する要素などに着目し、基本図形の面積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現を高め、公式として導くこと。

二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。
(7) ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを理解すること。
(4) 百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めること。
(5) 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係を別の二つの数量の関係との比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと。

第6学年

平面図形の面積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。
(5) 円の面積の計算による求め方について理解すること。
(4) 図形を構成する要素などに着目し、基本図形の面積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現を高め、公式として導くこと。

二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。
(4) 比の意味や表し方を理解し、数量の関係比で表したり、等しい比をつくったりすること。
(5) 日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて数量の関係の比べ方を考察し、日常生活に生かすこと。

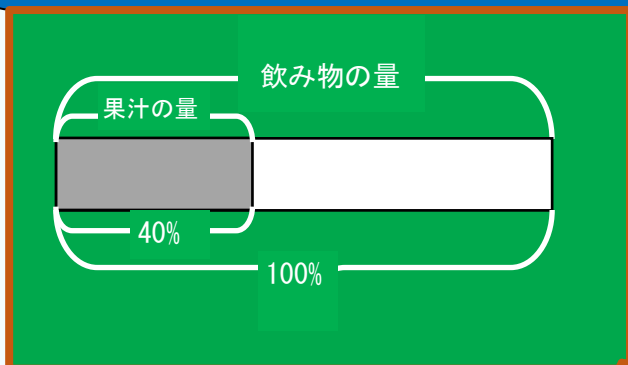
(6) 算数 授業改善のポイント

◇課題「問題場面の数量の関係を的確に捉えて（解釈して）立式し、問題解決を図り、数学的に説明すること」に課題がある。〈事象の変化と数量の関係の把握〉

問題1 オレンジの果汁が40%含まれている飲み物があります。この飲み物 1000mL には、果汁が何 mL 入っていますか。

⇒Q. どのような問題なのか？ 見通し（メタ認知）をもたせる。

⇒A. 「百分率で表された割合と基準量から、比較量の求め方（解法）を説明する問題」



果汁が 40%含まれている飲み物が 1000mL あるとき、割合が 40%であること、基準量は 1000mL だから、比較量は「基準量×割合＝比較量」で求められるから…

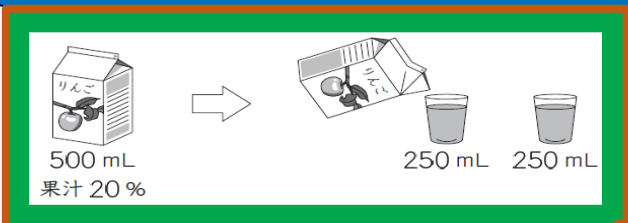
「 $1000 \times 0.4 = 400$ 」となり、答えは、果汁が 400mL 入っている。



問題2 りんごの果汁が 20%含まれている飲み物が 500mL あります。この飲み物を2人で等しく分けると1人分 250mL になります。250mL の飲み物に含まれている果汁の割合について説明しなさい。

⇒Q. どのような問題なのか？ 見通し（メタ認知）をもたせる。

⇒A. 「割合の意味を理解しているか説明を求める問題」



250mL は、500mL の $\frac{1}{2}$ の量です。このとき、飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。



◇「事象の変化と数量の関係の把握」のための問題解決的な学習ステップ（過程）

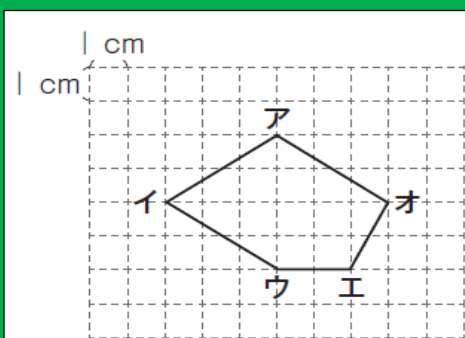
ステップ1 二つの数量や事象の間の依存関係を考察し、ある数量が他のどんな数量と関係付けられるのか明らかにする。

ステップ2 伴って変わる二つの数量について対応や変化の特徴を明らかにする。

ステップ3 二つの数量の間の関係や変化の特徴を問題解決において活用する。

◇課題「複合図形を基本図形に分割し、分割した図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて説明することに課題がある。

問題3 下の図のような五角形アイウエオを2つの図形に分けて面積を求めるとき、どこに直線を引きますか。二つの図形の面積の求め方について説明しなさい。



- ・長方形の面積＝たて×横＝横×たて
- ・正方形の面積＝1辺×1辺
- ・平行四辺形の面積＝底辺×高さ
- ・三角形の面積＝底辺×高さ÷2
- ・台形の面積＝（上底＋下底）×高さ÷2
- ・ひし型の面積＝対角線×対角線÷2

○三角形アイオの面積は $6 \times 2 \div 2$ で求めることができます。台形イウエオの面積は、 $(6+2) \times 2 \div 2$ で求められます。○ひし形アイウオの面積は $6 \times 4 \div 2$ で、三角形ウエオの面積は $2 \times 2 \div 2$ で求められます。

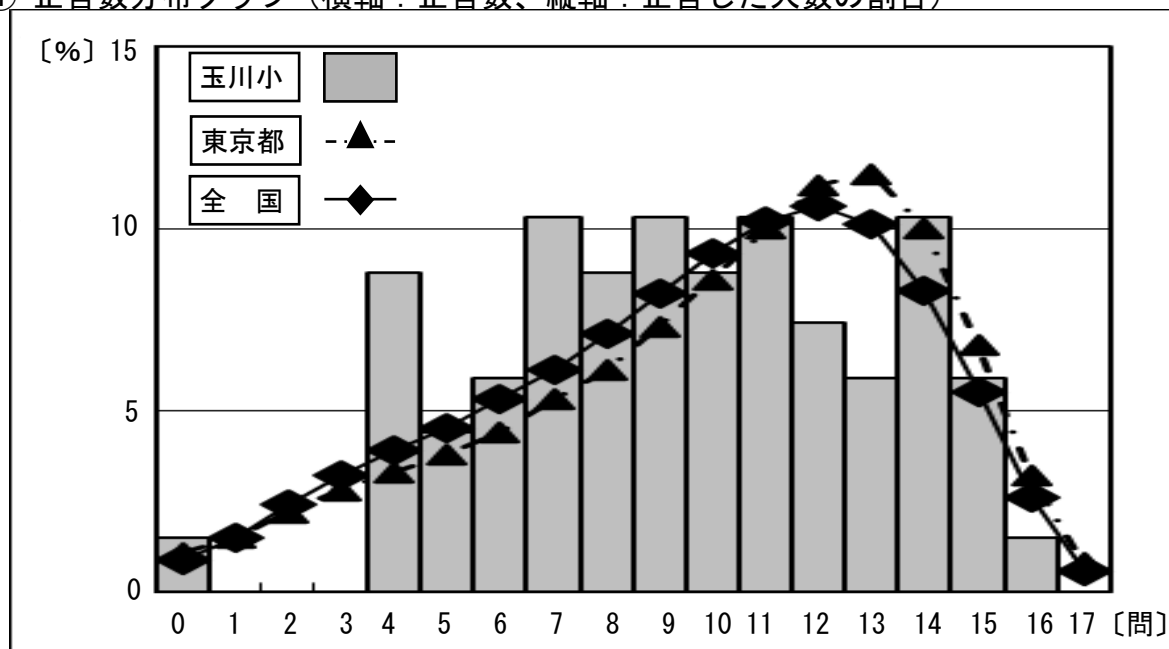


5 理科の調査結果

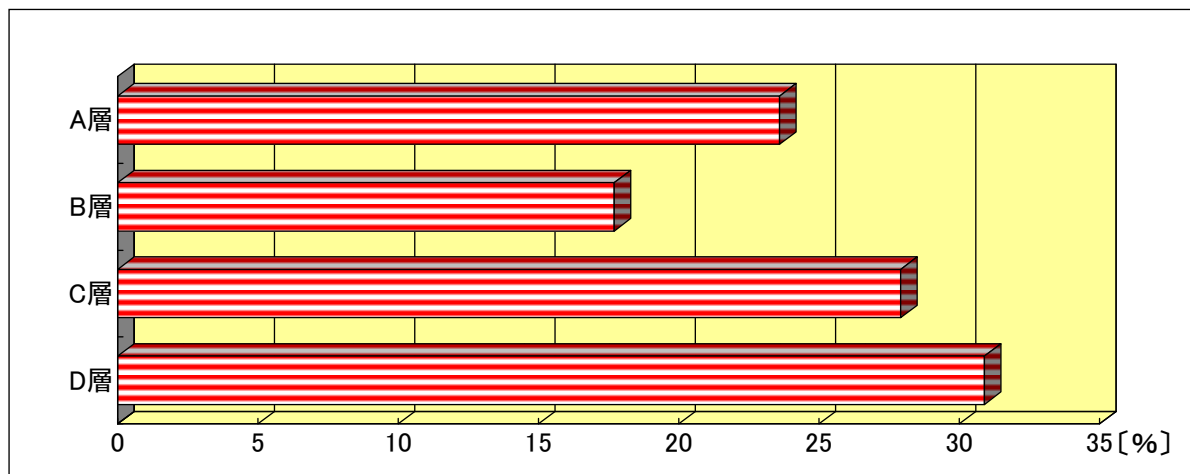
(1) 理科の調査結果の概要

平均正答率〈％〉	本校 56.0％	東京都 60.0％	全国 57.1％
----------	----------	-----------	----------

① 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：正答した人数の割合）



② A層（習熟の早い層）からD層（習熟の遅い層）の児童の割合



(2) 学習指導要領の領域と観点別結果

		対象問題数(17問) 平均正答利率(%)	
学習指導要領の領域	A	エネルギー	4 43.0
		粒子	6 52.9
	B	生命	4 47.1
		地球	6 66.7
			0
評価の観点	知識・技能		8 50.2
	思考・判断・表現		9 60.9
	主体的に学習に取り組む態度		0

(3) 理科の設問ごとの正答率と分析

問題 番号	問題の概要（出題の趣旨）	本校		全国(公立)	
		正答率	無解答率	正答率	無解答率
1 (1)	赤玉土の粒の大きさの違いによるしみ込む時間の違いを調べる実験でコップAの土と水の量からコップBの条件をかく。(条件制御を踏まえ、実験方法を設定することができる。) 第4学年 [地球、思考・判断・表現]	80.9%	4.4%	79.5%	2.5%
1 (2)	赤玉土の粒の大きさの違いによる水のしみ込み方の違いについての実験結果をもとに結論をかく。(赤玉土の粒の大きさの違いによる水のしみ込み方の違いについて結果を基に結論を導き表現することができる。) 第4学年 [地球、思考・判断・表現]	66.2%	13.2%	60.5%	8.5%
1 (3)	【結果】や【まとめ】を基に、中位の赤玉土の粒のしみ込む時間を考え、その時間と理由を選ぶ。(赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いの実験結果から推論して、表現することができる。) 第4学年 [地球、思考・判断・表現]	82.4%	0.0%	77.8%	0.9%
2 (1)	Al, Fe, Cu について電気を通すか、磁石にひきつけられるかを選ぶ。(身の回りの金属の性質をについて理解している。) 第3学年 [エネルギー、知識・技能]	8.8%	0.0%	10.6%	0.6%
2 (2)	電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけベルが鳴る回路を選ぶ。(電気の回路のつくり方について実験方法を構想し、表現することができる。) 第3学年 [エネルギー、思考・判断・表現]	48.5%	1.5%	42.9%	0.6%
2 (3)	電磁石を強くする方法をかく。(電磁石を強くする方法について理解している。) 第5学年 [エネルギー、知識・技能]	82.4%	1.5%	78.0%	2.7%
2 (4)	電磁石を最も強くできるつなぎ方を選ぶ。(直列つなぎに関する知識を身に付けている。) 第4学年 [エネルギー、知識・技能]	32.4%	0.0%	55.1%	0.8%
3 (1)	ヘチマの花のおしべとめしべを選び、受粉についてかく。(ヘチマの花のつくりや受粉に関する知識を身に付けている。) 第5学年 [生命、知識・技能]	58.8%	0.0%	70.7%	1.5%
3 (2)	適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ。(顕微鏡の操作技能を身に付けている。) 第5学年 [生命、知識・技能]	48.5%	0.0%	45.6%	0.8%
3 (3)	ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験を選ぶ。(実験の制御された解決方法を構想し表現することができる。) 第5学年 [生命、思考・判断・表現]	54.4%	2.9%	62.0%	1.7%
3 (4)	レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、発見した問題をかく。(種子の発芽条件について比較を通して、新たな問題を発見する。) 第5学年 [生命、思考・判断・表現]	26.5%	14.7%	28.9%	11.4%
4 (1)	水の温まり方について観察・実験方法を見直し、不足点をかく。(観察・実験方法を見直し、検討・表現できる。) 第4学年 [粒子、思考・判断・表現]	61.8%	7.4%	50.6%	6.1%
4 (2) イウ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化することについてかく。(温度変化による水の状態変化について理解している。) 第4学年 [粒子、知識・技能]	66.2%	1.5%	64.2%	1.3%
4 (2) エオ	水の結露について、温度によって水の状態が変化することについてかく。(温度変化による水の状態変化について理解している。) 第4学年 [粒子、知識・技能]	52.9%	1.5%	57.5%	1.5%
4 (3) カ	海にある氷が解けることについて、水が氷に変わる温度を根拠にしている予想を選ぶ。(水が氷に変わる温度を根拠にしている事象を捉え、表現することができる。) 第4学年 [地球、思考・判断・表現]	61.8%	1.5%	59.8%	2.3%
4 (3) キ	水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けている予想を選ぶ。(氷が水にとけてできた水が海に「流れていくことを根拠にしている事象を捉え、表現することができる。) 第4学年 [地球、知識・技能]	51.5%	2.9%	60.9%	2.4%
4 (3) ク	海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ。(「水は温まると体積が増える」ことを根拠に予想し、表現することができる。) 第4学年 [地球、思考・判断・表現]	66.2%	2.9%	65.6%	2.5%

6 小学校理科の問題と分析・授業改善のポイント

(1) 学習のつまずきが見られる問題と分析

【問題の概要】理科[2](1)

アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の1から4までの中から、それぞれ1つ選んで、その番号書きましょう。同じ番号を選んでもかまいません。

- 1 電気を通し、磁石に引き付けられる。
- 2 電気を通し、磁石に引き付けられない。
- 3 電気を通さず、磁石に引き付けられる。
- 4 電気を通さず、磁石に引き付けられない。

【分析】本問は、身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる問題であり、正答率は、8.8%である。実際の指導に当たっては、覚えるのではなく、アルミニウム、鉄、銅が電気を通すのか、磁石に引き付けられるのか、実験を通して実感的に把握できるよう指導することが大切である。

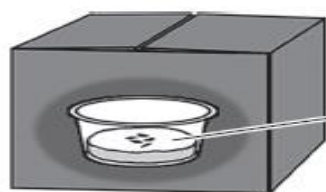
(2) 学習のつまずきが見られる問題と分析

【問題の概要】理科[3](4) たかひろさんたちは、レタスの種子を発芽させようとしています。



レタスの種子を発芽させようと思って、水、空気、温度の条件を下のようにしたのに、1つも発芽しなかったよ。

たかひろさんが行った実験



〈条件〉

- ・ 水あり
- ・ 空気あり (種子が空気にふれている)
- ・ 温度 (室温)
- ・ 日光なし (箱をかぶせている)
- ・ 肥料なし

水、空気、温度のほかに、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の〈条件〉の中から1つ選んで調べてみたい。



(4) てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。輝美さんはどのような【問題】を見つけらと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

① 〈条件〉から、日光または肥料について、1つ選んで記述しているもの。

② レタスの発芽に関し、疑問を示す趣旨で記述しているもの。

レタスの種子が発芽するために、日光は必要なのだろうか。

【分析】本問は、レタスの種子の発芽の条件に付いて、差異や共通点を基に、新たな問題を見だし表現することができるかどうかをみる問題であり、正答率は、26.5%である。実際の指導に当たっては、観察・実験などの結果を仮説と照らし合わせながら解釈したり、自他の考えの比較を見直したりしながら考察すること。その上で、その考察をもとに、新たな問題を見出し、解決を図っていく仮説検証型の授業に改善する必要がある。

(3) 理科 授業改善のポイント

◇課題 「実験結果（データ・図表）を基に分析して考察すること」に課題がある。
⇒実験結果を表などに整理し、事実（条件と結果）と、その解釈（結果から考えられること）の両方を整理し説明する授業展開

◇単元名 流水の働き

◇前時までの「考えの獲得」

前時までに児童は、「まっすぐな川で流れる水の量が増えたときには、一度に流れる水の量が多い方が土地を削ったり、石や土を運んだりする働きが大きくなり、土地の様子の変化に違いある」という考えを獲得している。

学習問題

曲がった川に大雨が降り、一度に流れる水の量が増えると、土地の様子はどのように変わるのだろうか。

仮説



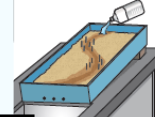
曲がった川では、曲がっているところの外側がけずられたから、水の量が増えると外側が多くけずられて、内側はたくさんの砂や土がたまる。



まっすぐな川で流れる水の量が増えてきたときには、砂や土がたくさん流されるから、内側の外側も砂や土がけずられると思う。

実験計画

川の曲がっているところの内側と外側に棒をたて、1本のペットボトルの水を流したときと、2本のペットボトルの水を同時に流したときの棒の様子をグループで調べる。



結果の見通し



川の曲がっているところの外側のぼうは6本全部たおれて、内側のぼうは1本もたおれず、砂や土がたい積すると思う。



上流も下流も、内側と外側の両側のぼうはほとんどが倒れると思う。

実験結果

実験結果は印象ではなくデータで表し、表にまとめる。

考察をノートに書いてから、話し合う。考察は、実験結果と、そこから考えたことを書く。

1本のペットボトルの水を流したときの、ぼうの様子



2本のペットボトルの水を同時に流したときの、ぼうの様子



川	上 流		下 流	
	内側	外側	内側	外側
1 本	0 本	2 本	0 本	2 本
2 本 同時	2 本	3 本	2 本	3 本

考 察



考 察

一度に流す水の量を増やすと、川の曲がっているところの内側でも外側でもぼうがたおれたことが分かった。

「ぼうがたおれた」というのは、実験結果しか言えてないよ。「実験結果から考えること」についても書いたらいいと思うよ。



なるほど。「川の曲がったところの内側も外側もしん食の働きが大きくなった」ことを書き加えればいいのか。



考 察

一度に流す水の量を増やすと、川の曲がっているところの内側でも外側でもぼうがたおれたことから、内側も外側もしん食の働きが大きくなったといえる。

考察では、実験の結果を基に、「事実」と「解釈」の両方を示しながら、説明する。

〈事実〉一度に流す水の量を増やすと、（条件）川の曲がっているところの内側でも外側でもぼうがたおれた。（結果）

〈解釈〉内側も外側も、しん食の働きが大きくなった。（結果から考えられること）

結 論

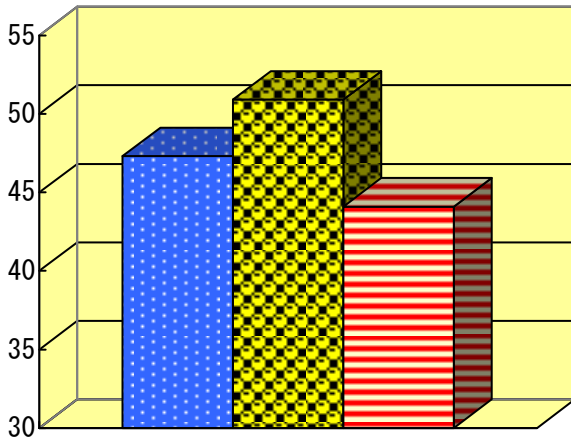
曲がった川に大雨が降り、一度に流れる水の量が増えると、流れる水の働きが大きくなり、川の形が大きく変わる。

7 児童質問紙調査結果の概要

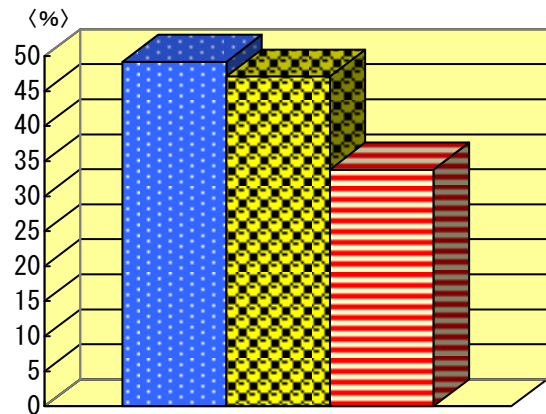
(1) 児童質問紙調査結果の概要①

下記のグラフは、児童質問紙において、「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」と「どちらかといえば当てはまらない」・「当てはまらない」のうち、「当てはまる」と回答した児童の割合を示している。
 * 全国：  東京都：  本校： 

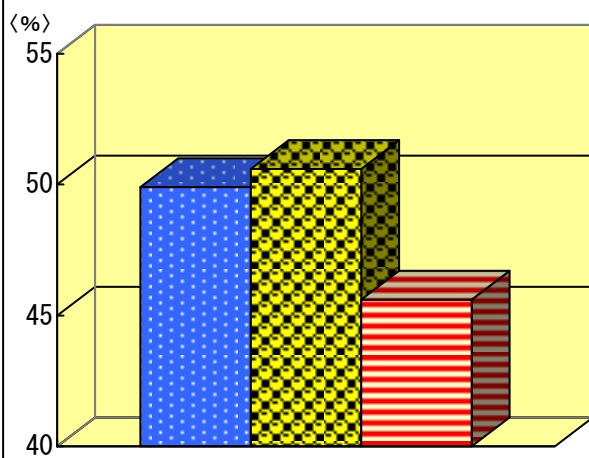
① 「自分には、よいところがありますか。」
 〈%〉



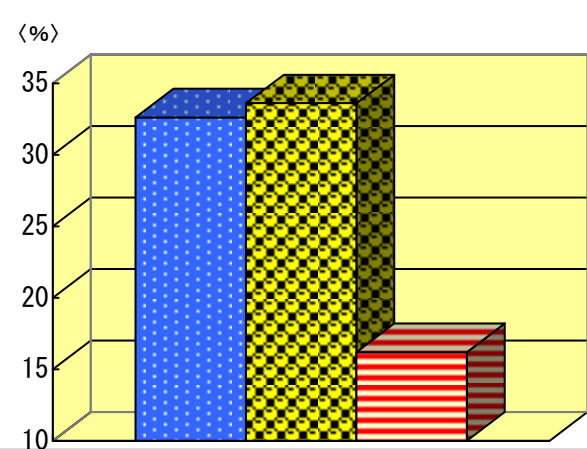
② 「人が困っているは、進んで助けていますか。」
 〈%〉



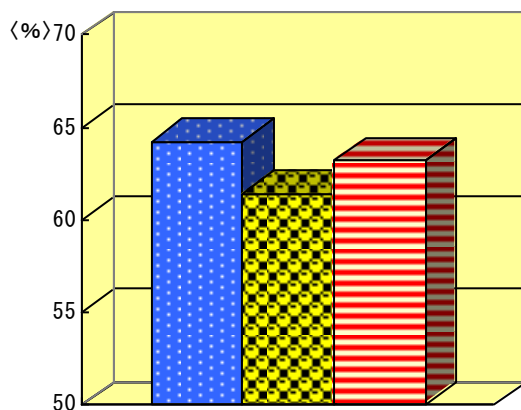
③ 「学校に行くのは、楽しいと思いますか。」
 〈%〉



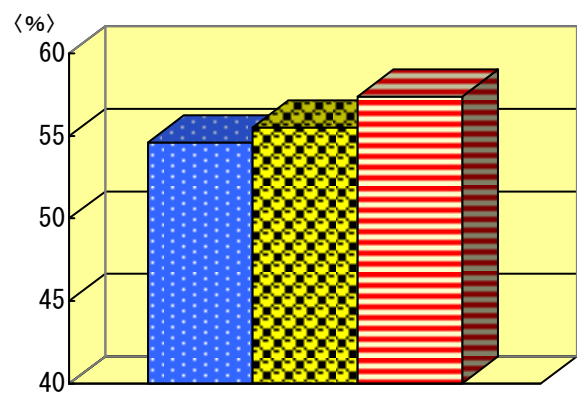
④ 「自分とは違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」
 〈%〉



⑤ 「友だち関係に満足していますか。」
 〈%〉



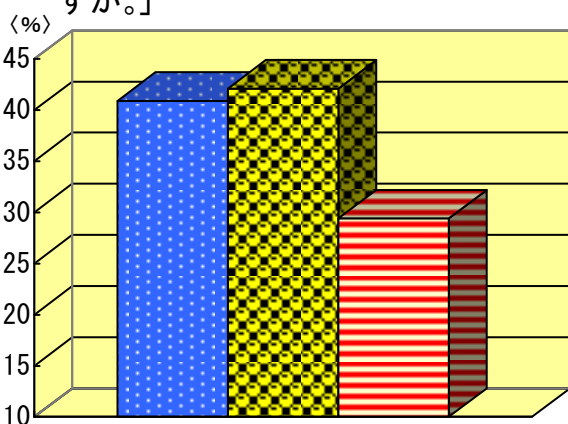
⑥ 「普段の生活の中で幸せの気持ちなることはどれくらいありますか。」
 〈%〉



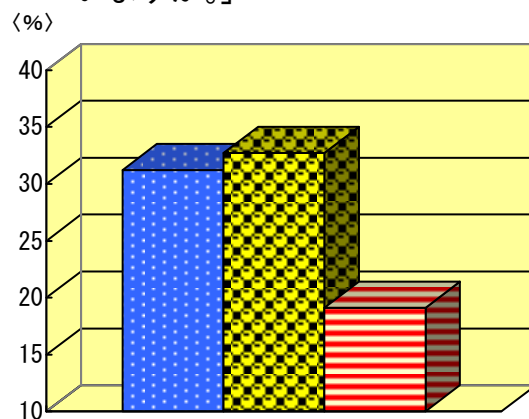
(2) 児童質問紙調査結果の概要②

下記のグラフは、児童質問紙において、「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」と「どちらかといえば当てはまらない」・「当てはまらない」のうち、「当てはまる」と回答した児童の割合を示している。
 * 全国：  東京都：  本校： 

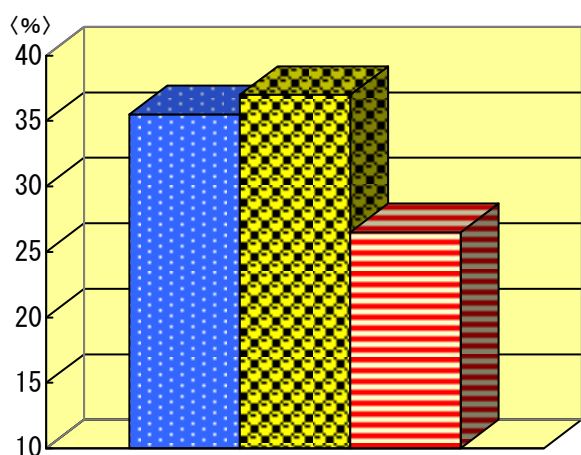
① 「話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、新たに気付いたりしていますか。」



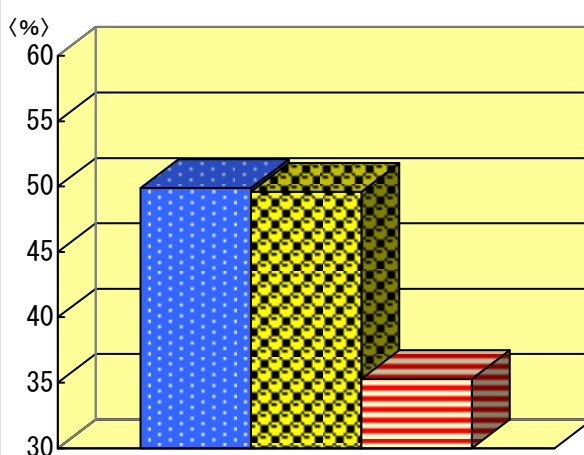
② 「学習した内容を、次の学習につなげていますか。」



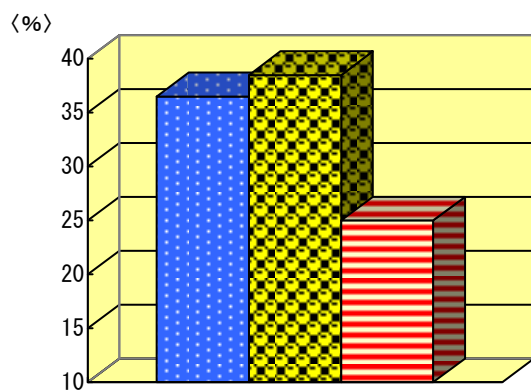
③ 「授業で学んだことを次の学習や実生活に結び付けていますか。」



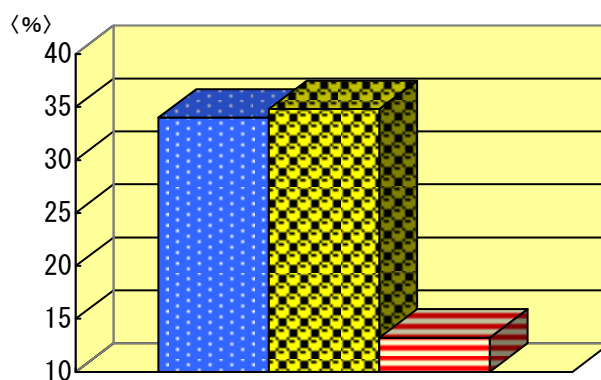
④ 「授業や学校生活では、お互いに協力して課題解決を図っていますか。」



⑤ 「学級生活をよりよくするために話し合い、解決方法を決めてますか。」



⑥ 「学級での話し合いを生かして、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。」



8 各教科等における授業改善のポイント

重点事項

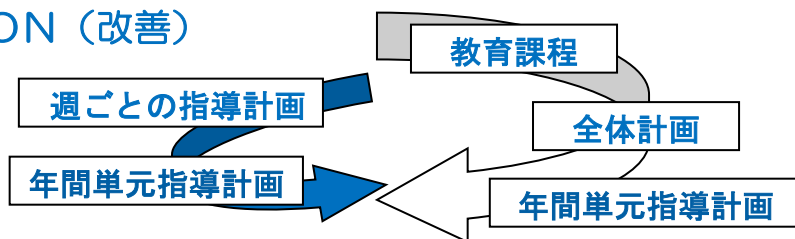
- (1) 各教科等の授業・朝学習において「読み解く」段階を意図的・計画的に設定する。
 - ① 複数の「連続テキストと非連続テキスト」から目的に応じた情報を正確に取り出す場面
 - ② 取り出した複数の情報を比較・関連付けて読み取る場面
 - ③ 読み取った内容の意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する場面
- (2) 各教科等の授業・朝学習と国語科（「書くこと」の場面と「話すこと・聞くこと」の場面）とのカリキュラム・マネジメント（クロス・カリキュラム）を図る。（p3.を参照すること）
 - ① 題材の設定（→情報の収集→内容の検討） ② 構成の検討（構成案の作成→伝え合って→検討する→構成の確定） ③ 考えの形成・記述1（構成にしたがい、考えを記述〈下書き〉→伝え合って→検討する） ④ 考えの形成・記述2（説得力のある文章〈理由・根拠〉→伝え合って→検討する）
 - ⑤ 推敲（伝え合って→推敲する） ⑥ 共有
- (3) 単位量当たり大きさ、基準量・比較量・割合の意味理解できるよう具体的に指導する。
- (4) 導入時に「見通し（見積り、仮説、予想〈理由〉）」をもたせること、終末時に「ふりかえり」をさせる指導を徹底する。
- (5) 「実験結果を表などに整理し、事実（条件と結果）と、その解釈（結果から考えられること）の両方を整理し説明する」場面を意図的・計画的に設定する。
- (6) 「玉小 授業カスタンダード」に則った授業を展開する。
- (7) 玉川タイムで「言語活動 10 分間チャレンジ」を行い、その習慣化を図る。
- (8) 「玉小 学級カスタンダード」の実践の徹底を図り、学級力向上の PDCA サイクル化を図る。

9 カリキュラム・マネジメント

(1)カリキュラムのPDCAサイクル化

- ① 年間指導計画を、当該学年の各教科について「学校経営グランドデザイン」、「学習指導要領」、「地域・学校・児童の実態」、「各種スタンダード、校長からの資料」を踏まえ、学期ごとに、各学年・専科担当（横串）が年間指導計画をチェック（大胆に朱を入れること）する。
- ② 「①」を吟味・検討し、「学校経営グランドデザイン」、「学習指導要領」、「地域・学校・児童の実態」、「各種スタンダード、校長からの資料」を踏まえ、上記の観点から、各教科担当（縦串）が次年度に向け年間指導計画を完成させる。

(2) ACTION（改善）



☆ 教育課程→全体計画→・・・←単元指導計画←週ごとの指導計画の、両方向からの評価改善を実施、それぞれを有機的に関連付け、系統化を図っていく。

◇ 改善の視点

- ① 「何ができるようになるか」育成を目指す資質・能力について
- ② 「何を学ぶのか」学習（指導）内容（学ぶ意義）・教育課程の編成
- ③ 「どのように学ぶのか」学習（指導）方法・指導計画の作成
- ④ 「何が身に付いたのか」学習評価
- ⑤ 「子供一人一人の発達をどのように支援するか」発達を踏まえた指導
- ⑥ 「実現するために何が必要か」必要な方策